

委託

JUMP アーティスト+キュレーター-国際協働プログラム（実施団体:独立行政法人国立美術館）

目的・目標

現代アート作品や展覧会制作に携わる若手人材の育成および国際的なネットワーク構築による日本の現代アートの振興を目的とし、アーティストとキュレーターが海外の美術関係者と協同して作品制作から展示を行うことで、国際的に活躍しうる人材を輩出するとともに、本プログラムで構築されるネットワークが長期にわたり活用され、次代を担う人材が海外で活発に活動する契機の創出を目標とする。

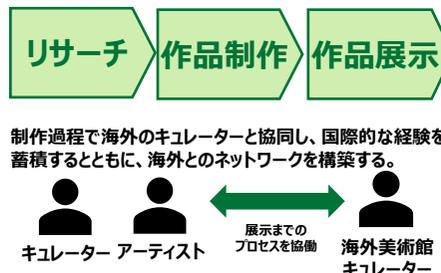
概要

若手のアーティスト・キュレーターを海外に派遣し、リサーチベースの作品制作を経て現地の美術館で作品展示を行い、海外での展示終了後に国内でも作品の公開を行う。作品制作・展示に加えて、本プログラムで得たノウハウ・成果を広く共有するため、オンラインを中心とした情報発信を継続して行うとともに、育成対象者以外のアーティストやキュレーター、コーディネーター等の人材が国際的なプロジェクト実施の際に参照できる記録集を制作する。

3年目までの取組

アーティスト1名(組)とキュレーター1名を1グループとした合計3グループを海外3か所に派遣。キュレーターは国内の美術館から募り、派遣先の美術館関係者と協同してアーティストの選定やキュレーションを行う。アーティストは派遣先地域でのリサーチに基づいた作品を制作し、現地美術館で作品を展示する。これらのプロセスを定期的に発信しながら、アーティスト・キュレーターの業務のみならず、コーディネーションや広報活動も含めた国際的な協働プロジェクト推進のノウハウや過程をおさめた記録集を制作する。

派遣先地域での制作プロセス



5年目までの取組

国内
展示計画

国内
作品展示

活動
報告会

育成対象キュレーターとアーティストが中心となり、3年目までの成果を国内で広く共有・発信

海外で制作・展示した作品を日本で公開する。日本での展示計画は3年目までに得た知見や経験を活かしながら、育成対象のアーティストとキュレーターが中心となって行う。作品の公開に加え、記録集の内容を広く普及するための情報発信活動と、5年間の活動を総括・共有する場として、育成対象者を含めた関係者によるトークイベント等の活動報告会を開催する。

中核となるクリエイターやアドバイザー

会田 大也 (山口情報芸術センター アーティスティック・ディレクター)
片岡 真実 (国立アートリサーチセンター センター長)
保坂 健二郎 (滋賀県立美術館 ディレクター)
安田 篤生 (高知県立美術館 館長)



片岡 真実
撮影:伊藤 彰紀

※ほか、海外での活動経験を有するアーティスト、キュレーター、研究者等が協力予定

育成対象者：7人

アーティスト：青柳 菜摘、遠藤 薫、
MES (新井健・谷川果菜絵)

キュレーター：
荒井 保洋 (滋賀県立美術館 主任学芸員)
塚本 麻利 (高知県立美術館 主任学芸員)
見留 さやか (山口情報芸術センター キュレーター)

(分野・ジャンル)

・現代アート

(渡航先の国・地域)(国内外の連携・協力体制)

2025～2026年に以下の地域に渡航し、各美術館の協力を得て作品制作や展示を行う。

- ・シドニー(オーストラリア)
Art Gallery of New South Wales
- ・リスボン(ポルトガル)
Centro de Arte Moderna Gulbenkian
- ・ロサンゼルス(アメリカ合衆国)
Museum of Contemporary Art

育成対象キュレーターが所属する美術館をはじめ、国内の美術館とも連携し、国内外における美術関係者のネットワークを構築する。

成果目標 (見込)

目標値

企画段階から海外公演等に登用される若手クリエイター等の数	6人
国内外の団体・企業等との連携数 (連携団体数、事業提携数、拠点形成数など)	10件
プロジェクトに関わる海外アーティスト・キュレーター等の数	20人
国内外で展開される公演・展示等の数	5回
国内外で展開される公演・展示等の入場者数	1,500人

育成対象者
(アーティスト、
キュレーター)

キュレトリアルな観点で
作品制作に関する助言

リサーチや作品制作の
コーディネーション

アドバイザー
(海外美術館関係者、
国内の有識者等)

情報発信やプロ
ジェクト全体に関
する助言・支援

運営事務局
(国立アートリサーチ
センター内)